

〔授業報告〕

日米Eメールプロジェクトの実践と効果

内田あゆみ 森 幸穂

〔Classroom Report〕

Effectiveness of E-mail exchange between American and Japanese students in the college foreign language classrooms

Ayumi UCHIDA, Sachiho MORI

Abstract

This paper reported the use and effects of E-mail exchange between American and Japanese college students in the foreign language classrooms. This E-mail exchange project was conducted in the CALL English classes at Bunkyo University and in the intermediate Japanese classes at the University of Minnesota. A Bunkyo student and a Minnesota student were paired. After introducing each other via e-mail, they sent their e-mail partner questions which they created in their target language. After several e-mail exchanges, each student wrote an essay based on the information they received from their e-mail partner, and they presented the essay in class. According to the students' surveys and teachers' observations, this E-mail project played an important role to students for authentic foreign language learning. The results of the survey showed that this project motivated students to write and read in their target languages. Students also enjoyed communicating with their email partners. This project was also successful in helping students deepen their knowledge about their target language culture and society. In addition, this project was effective in making students be more autonomous foreign language learners. A description of the e-mail exchange project and the advantages of adoption in the foreign language classroom environment are presented in this paper.

1. はじめに

文教大学国際学部の英語授業において、オーセンティックな英語でのコミュニケーションの機会を作るために2008年度秋学期と2009年度春学期にミネソタ大学の学生とEメールプロジェクトを行った。このプロジェクトは、ミネソタ大学と文教大学の学生（各1名）をペアにさせ、お互い興味のあることをEメールで質問し合い、返信メールをもとにエッセイを書いて発表するというものである。

プロジェクトを行った本学の授業CALL102と104は、「CALL（Computer Assisted Language Learning＝コンピュータ利用の外国語学習）教室の機能を利用し、リーディング・ライティングを中心として総合的な英語力向上のための演習を行う」授業である。日米Eメールプロジェクトはこの授業の中の一つのプロジェクトとして行った。Eメールプロジェクトの目的は、本学の学生達

がアメリカの大学生と興味があることについてEメール交換することを通し、高校までの英文法や語彙学習を超え、自分の聞きたいことを英語で質問し、教科書英語ではない生の返信メールを読むことで、英語でのコミュニケーションの楽しさを体験しながら英語学習を行うことであった。

ミネソタ大学でも、中級日本語コースにおいて授業の中の一つのプロジェクトとしてEメールプロジェクトを行った。プロジェクトに参加した学習者は、ミネソタ大学での二年間の初級日本語コース修了もしくはそれと同等の日本語学習歴があり、初級文型・語彙を使用し身近な話題について話ができ、意見を言うことができるレベルであった。ミネソタ大学側のプロジェクトの目的も、日本に住んでいる日本人とコミュニケーションを図り、日本社会・日本文化について知識を深め、自分のことを伝え、相手のことを知り、最終的にEメール交換によって得た情報を元に700字程度の作文を書くことであった。

2. 日米Eメールプロジェクト内容

2.1 文教大学でのEメールプロジェクトの授業内容

第1～2回：自己紹介文作成

クラスでクラスメートを知るアクティビティー（例：出身はどこですか、趣味は何ですか）をする。そのアクティビティーをもとに、宿題として自分の自己紹介文を書く。次に、宿題の自己紹介文をもとに、ヘッドセットを使用して異なる学生5人に自己紹介をする。自己紹介文は回収し、添削。

第3回：質問文作成

クラスを3グループに分け、各グループにトピック（例：アメリカの大学生活）を与え、アメリカの大学生にEメールで質問したいことを5つ考える（例：どんなアルバイトをしていますか、週末は何をしていますか）。各グループで作成した5つの質問を黒板に書き、文法や語彙の間違えをクラスで確認。その後、自分が聞いてみたい質問を3つ考える。

第4回：Eメール送信

英語のEメールのフォーマットを導入し、Eメールプロジェクトプリントをもとに自己紹介と質問3つをEメールパートナーに送信。

第5～6回：返信メールに返信

返信が来たか確認し、来ていない学生は催促メールを出す。返信メールには、お礼のメールを返信する。

第7～8回：エッセイ

返信メールを読み、宿題としてエッセイを書く。エッセイには、Eメールパートナーの紹介文、3つの質問の中で一番印象に残ったものを選び、その質問と答えの内容と、その内容が日本もしくは自分の考えと何が違うかもしくは同じか、さらになぜ印象に残ったのかを書く。エッセイプリントは教師が添削し学生が修正する。

第9回：発表

クラスで自分のEメールパートナーの紹介とEメールの内容をシェアする。スピーチ形式ではなく、エッセイをもとに、ヘッドセットを使用して、異なる学生5人に自分のプロジェクト内容について話す。評価は1) 伝えたいことが相手に伝わるか、2) 指示された情報が入っているか、3) 創造性とおもしろさを3段階で評価。

2. ミネソタ大学でのEメールプロジェクトの授業内容

1. プロジェクトの説明

Eメールプロジェクトの目的、内容、流れを説明。作文のトピックと例を与え、その中から各自興味のあるトピックを選ぶよう指示。

2. 質問文作成の導入

より多くの情報を得るため、「はい」「いいえ」で終わる質問や大きすぎる質問（例：山田さんは恋人がいますか。日本人の男女関係はどうですか。）は避け、5W1Hの質問、個人の経験や意見を知ることができる質問、一般的な考えを知ることができる質問（例：日本人はどんな所によくデートに行きますか。日本人はよくどんなところで恋人をみつけますか。恋人と一緒に住むことについてどう思いますか。）を考えるよう具体例を提示しながら指導。

3. 質問文作成と添削

宿題として、作文のトピック、そのトピックを選んだ理由、そのトピックに関する5つの質問を書いて提出させる。教師は文法・表現の訂正に加え、質問が一つのトピックに統一されているか、多くの情報を得ることができる質問になっているか、日本人の学生にとって答えやすい質問になっているかチェックをし、助言をし、評価をする。

4. 自己紹介文と質問のメールの導入

Eメールのフォーマットの説明と、自己紹介、本文、終わりの言葉の書き方の指導。

5. 自己紹介文と質問のメールの送信

コンピューターラボにて、Eメールの書き方の指導後、各自用意してきた自己紹介文と修正された質問を一斉送信。教師にもCCで送信させ、評価する。

6. オンライン辞書を使ってメールを読む

コンピューターラボにて、オンライン辞書を紹介し（例：Rikai.com, リーディングチュウ太、Jim Breen's WWWJDIC Japanese-English Dictionary）、実際にそれらのオンライン辞書を使用し、日本人学生からの自己紹介と質問の答えを読む。

7. 作文の導入と下書き

授業内で作文のフォーマット、構成、作文で使用できる表現、評価方法の説明をし、宿題として日本人学生からの返信を元に作文の下書きを書く。必要であれば各自追加の質問を送る。作文には序論でトピックの紹介とトピックを選んだ理由と、Eメールパートナーである日本人学生の説明、

本論で質問と日本人学生の答え、日本人学生から得た情報を元に日米の比較、自分の意見等、結論ではプロジェクトを通して分かったこと、考えたこと、感想等を書くよう指導。提出させた下書きは教師がコレクションコードで添削し、返却。

8. 作文の送信

メールのフォーマットと構成を説明後、コレクションコードを見て修正した作文を日本人学生に添付ファイルとして送信する。この際、日本人学生に作文を読み、コメントを送ってもらうようお願いする。教師も回収し、評価する。

9. お礼のメールの送信

メールのフォーマットと構成を説明後、お礼のメールを送信する。教師にも CC で送信させ、評価する。

3. 学生の反応

3. 1 文教大学の学生の反応

2008 年度秋学期と 2009 年度春学期の最後に本プロジェクトについてのアンケートを行った。質問は、(1)E メールプロジェクトはどうだったか、(2)E メールプロジェクトの何がよかったか、(3)また E メールプロジェクトをやりたいか(資料 1)であった。合計 81 名の学生がアンケートに答えた。学生の率直な意見から本プロジェクトの改善を目指す目的で、アンケートの答えは日本語でも英語でもいいものとした。アンケート結果は、各質問ごとに以下に示す。尚、学生の自由記述の英語は修正していない。

(1) E メールプロジェクトはどうだったか

「E メールプロジェクトはどうだったか」の結果を表 1 に示した。81 人中 70 人(約 9 割)が本プロジェクトが「楽しかった」と回答した。一方で「普通」と答えた学生が 11 人、「楽しくなかった」と答えた学生も 3 人いた。

表 1. 「E メールプロジェクトはどうだったか」の回答項目別人数

回答項目	人数
楽しかった。Fun	70
普通。OK	11
楽しくなかった。Not fun	3

「楽しかった」と回答していた学生の理由の中でもっとも多かった意見は、アメリカの大学生と E メール交流できたことや友達になれたからというものだった。具体的には、以下の記述があった。

- Because we can communicate with other culture people.
- I make American friends.
- Because I got a new friend.

- My partner is very nice.
- I have American friends because my email partner is very kind.
- My partner is gentleman.
- She is nice talking with me.
- Its fun to me because I have never did Email project with foreign students.
- I felt so happy because I talked on email with foreign person.
- 初めてアメリカの大学生と知り合った。
- ミネソタ大学の人と交流を持てたから。
- 難しかったけど、外国人の人とメールするのはよい機会でした。
- メールで外国人とやりとりすることがないから楽しかった。
- 普段外国の方とメールする機会がないので楽しかったです。
- アメリカ人とメールできて面白かったです。
- 異文化の人とのメールは楽しかった。
- 外国人の人と絡めて楽しかった。

次に多かった理由は、アメリカについて知ることができたからというもので、以下に学生の自由記述を示す。

- I can know about America.
- I can know about US students.
- Because I know American life.
- I can learn American young people.
- I understand about American college life.
- Because I become know about US and different of the Japanese culture.
- Because Japan and America is different culture so I know American culture was very good.
- 他の国のローカルなことを知れてよかったです。
- アメリカの大学生生活を紹介してくれたから。
- その他、いい英語の勉強になった、楽しかったからという意見もあった。
- Because I could understand English.
- Spending E-mail to be a study English for me.
- 最初やって聞いた時はいやだと思ったけど、とてもやってよかったし、ためになった。
- 外国人との交流は英語力を鍛えるのによいと思う。
- It was very interesting.
- I enjoyed.
- Very fun.
- ちょっとめんどくさかったけどなんとなく楽しかった。
- 自分で英文を考えるのは難しかったけどメールのやりとりは楽しかった。
- とにかく楽しかった。
- 返事が来るのを楽しみにしていた。

以上の結果から、学生はEメールを通してアメリカの大学生と交流を持てたと感じており、それが楽しく、さらにアメリカについて学んだと感じていることがわかった。

その一方で、本プロジェクトが「普通」と答えた学生の理由の中には「難しすぎる」「返信メー

ルを読むのが大変」、「外国人の人とメールできてよかったけど返事してもそれ以上の返事がなかった（涙）」の意見があり、英文メールの読み書きの演習活動を再考することや、Eメール交換ができるだけ続けられるような対策を考える必要性がみえた。

さらに、「楽しくなかった」と回答した学生の理由には以下のような記述があった。

- I want to send e-mail from mobile phone.
- I was slowly type.
- I am not Email very much.
- I don't like it and don't know E-mail partner.

これらの記述は、少数の意見ではあったが、教師側がプロジェクトを行う上でもう一度考え直す必要がある重要なポイントだと考えられる。例えば、タイプするのが遅い学生や、Eメール自体をあまりしない学生、携帯電話でメールをしたかったという意見からは、テクニカルな問題や逆にテクニカルなことで改善できる部分を考え直さなければならないと感じた。また、「Eメールの相手を知らないの、嫌だった」という意見からは、今後「Eメールの相手をもっと知りたい」と思わせる動機付けの活動について見直す必要があることがわかった。

(2) Eメールプロジェクトの何がよかったか

「Eメールプロジェクトの何がよかったか」の結果を表2に示した。81人中40人が「英語の読み書きの練習ができた」と答えており、46人が「アメリカの文化が学べた」と回答している。このことから学生は本プロジェクトを英語学習もしくは新しい文化を学ぶ経験になったと捉えていることがわかった。さらに、12人の学生が「アメリカ人の友達ができた」と回答しており、Eメール交換だけでもアメリカ人学生との交流を感じられた学生がいることが明らかとなった。

表2. 「Eメールプロジェクトの何がよかったか」の回答項目別人数

回答項目	人数
英語の読み書きの練習ができた。Can practice reading and writing English	40
アメリカの文化が学べた。Can learn American culture	46
アメリカ人の友達ができた。Can make American friends	12

注) 複数回答可

(3) またEメールプロジェクトをやりたいか

「またEメールプロジェクトをやりたいか」の結果を表3に示した。81人中65人（約8割）の学生が「またEメールプロジェクトをやりたい」と回答した。一方で、2人の学生がプロジェクトをもうやりたくないと回答しており、「わからない」と答えた学生は14人いた。

表3. 「またEメールプロジェクトをやりたいか」の回答項目別人数

回答項目	人数
はい	65
わからない	14
いいえ	2

「またEメールプロジェクトをやりたい」と回答していた学生の理由については、主に三点ある。一点目はもっとアメリカについて知りたいという意見、二点目はもっとアメリカ人の友達やいろいろな国の人と話してみたい、三点目は英語学習の動機付けになったという意見であった。

一点目のアメリカについて知りたいという意見には、次のような記述があった。

- I want to know more American life.
- I want to learn American things.
- また英語でいろいろなことを聞きたいし教えたい。
- もっと多くのアメリカの大学生活を知りたい。

二点目のアメリカ人の友達や様々な国の人と話してみたいという意見には、次のような記述があった。

- I want to make many American friends.
- I want to become a friend with other persons.
- I think I want to talk with various foreign people more.
- もっと友達がほしい。
- 今度は違う人とやってみたい。
- おもしろかったからもっといろいろな国の人とメールしてみたい。

三点目の英語学習の動機付けになったという意見の記述には次のようなものがあった。

- It is interesting because I want to foreigner friends and study English.
- もっと英語をうまくしたい。
- こういう勉強の仕方なら楽しんでできるので。
- 自分の力になるから。

以上の結果より、本プロジェクトは、学習者にとっては「英語を勉強する」のではなく「英語を使って新しいことを知りたい」と思うきっかけとなったのではないかと考えられる。

その一方で、「またEメールプロジェクトをしたいかわからない」と答えた学生の理由としては、「楽しいけどめんどくさい」。「もうEメールプロジェクトをしたくない」と回答した学生の理由は「タイプするのが遅いから」というものがあった。そのため、テクニカル面でのサポートやプロジェクトを行う手順には改善の余地があることがわかった。

3.2 ミネソタ大学の学生の反応

ミネソタ大学においても2008年度秋学期の本プロジェクト終了時にアンケートを行った。アンケートでは、1点を「まったくそう思わない」、5点を「本当にそう思う」をした五段階評価で、(1)Eメールプロジェクトが読解力・作文力を高めたか、(2)日本文化・社会を理解するのに役立ったか(3)Eメールプロジェクト以前には知らなかったことを沢山学ぶことができたか、(4)自分が選んだトピックは良かったか、について聞いた。次に、(5)次にまたEメールプロジェクトに参加した場合はどんなトピックを選ぶか、(6)一番難しかったことは何か(7)一番楽しかったことは何か、(8)何か思ったこと・気がついたことは何か、を聞いた(資料2)。合計39名がアンケートに答えた。答えは英語でも日本語でもいいものとした。五段階で評価した(1)から(4)の結果を表4に示した。

表 4. Eメールプロジェクト終了時に行ったアンケートの質問別平均値

質問	平均値
1. Eメールプロジェクトが読解力・作文力を高めたか	4.27
2. 日本文化・社会を理解するのに役立ったか	3.86
3. Eメールプロジェクト以前には知らなかったことを沢山学ぶことができたか	3.59
4. 自分が選んだトピックは良かったか	3.57

(1) Eメールプロジェクトが読解力・作文力を高めたか

まず、「Eメールプロジェクトが読解力・作文力を高めたか」という質問の平均値は4.27で、他の三つの質問よりも数値が高かった。このことより、教科書や授業内で扱う読み物とは違い、未習の文型・語彙・漢字などが使用されている日本人学生のメールを読むことは、読解力を高めるのに効果があると多くの学習者が考えていたことがわかった。また、日本人学生にEメールを書くこと、最後に700字程度のまとめの作文を書くことが、作文力を向上させるのに役立ったと考えていたことがわかった。Eメールの書き手・読み手が教師ではなく、日本に住んでいる日本人学生であったことで、通常の活動よりも時間がかかり負担も大きかったが、その分、読解力・作文力向上につながったと感じていることがわかった。また700字程度の長さの作文を書くことは、本プロジェクト参加の学習者にとっては初めての経験で、初級から中級に移行するいい経験になったようである。

(2) Eメールプロジェクトが日本文化・社会を理解するのに役立ったか

次に、「日本文化・社会を理解するのに役立ったか」という質問の平均値は3.86であった。本プロジェクトで日本に住んでいる同世代の日本人学生に質問をすることで、通常の授業では学べないことが学べ、日本文化・社会を理解するのに役立ったと思った学習者が多かった。しかし、既にある程度の知識があることについて質問をした学習者や、あまり日本文化・社会とは関係のないことについて質問をした学習者は日本人学生とのEメール交換を通して日本文化・社会を理解したと思えなかったようである。

(3) Eメールプロジェクト以前に知らなかったことを沢山学ぶことができたか

三つ目の質問は「Eメールプロジェクト以前には知らなかったことを学ぶことができたか」で、平均値は3.59であった。(2)同様、教室や教科書では学べないことが学べたと答えた学習者が多かったが、すでに知識があるトピックについて質問した学習者、日本人学生があまり知らない専門性のあるトピックについて質問した学習者は新しい知識を多く得ることは難しかったようである。このことから、トピック・質問選びが、新しい知識を得ることができるかどうか大きく影響を及ぼしているようである。

(4) 自分が選んだトピックは良かったか

最後に、「自分が選んだトピックが良かったか」という質問の平均値は3.57で、他の三つの質問に比べて一番低い数値であった。トピックは学習者が興味のあることで自由に選ばせたが、実際に日本人学生に質問をし、答えてもらい、作文を書いてみると、そのトピックが日本人学生にとって

答えやすく、多くの情報を得ることができ、作文にまとめやすいトピックではなかったと感じた学生が多かったことがわかった。(2)と(3)で低い数値をつけた学習者は(4)でも低い数値をつけており、やはりトピック・質問選びが重要であることがわかった。

(5) 次にEメールプロジェクトに参加した場合、どんなトピックを選ぶか

トピック選びがEメールプロジェクトに大きく関わるので、今回の結果を次のトピック選びにどう役立てるか調べる為にこの質問を設けた。結果、今回のトピックをより詳しくしたものにするという答えや、全く異なるものを選ぶという答えなど色々であり、次のような記述もあった。

- 専門性をあまり必要としない、もっと一般的で人気があるものにする（武術について聞いた学生より）
- 将来自分が日本で生活する際にもっと役に立つものにする（日米の大学生活について聞いた学生より）
- 日本とアメリカでもっと違いがあるトピックにする（日米の音楽について聞いた学生より）
- もっと具体的なことを聞く（大学生の余暇の過ごし方について聞いた学生より）
- もっと色々な人が答えられることを聞く（都市と田舎の生活の違いについて聞いた学生より）

(6) Eメールプロジェクトで一番難しかったことは何か

「Eメールプロジェクトで一番難しかったことは何か」の結果を表5に示した。11名の学生が「Eメール・作文を書くこと」と回答している。回答理由には以下のようなものがあった。

- 失礼のない丁寧な日本語で書くのが難しかった。
- 自分の意見を作文に書くのが難しかった。
- 日本人学生が理解できるように書くのが難しかった。

次に、8名の学生が「Eメールを読むことが難しかった」と回答していた。通常の授業内で使用する教材と異なり、日本人学生からのメールには未習の文法・語彙・漢字が多く使用されており、それらを調べ理解するのに時間がかかったようである。

次に多かった回答は「日本人学生からの返信を待つこと」であった。本プロジェクトでは、作文作成の際に日本人学生から質問の答えが、お礼のメール作成の際には日本人学生からの作文のコメントが必要とされたが、学生によっては返信がなかなかもらえず、課題を期日通りに完成することができなかったようである。

次に多かった回答は、「トピックと質問を考えること」であった。トピックと質問の導入には時間をさいたが、質問を考える段階ではまだEメールパートナーについての情報が一切知らされておらず、年齢や趣味や性別が知らされていない日本人学生に対する質問を考えるのは難しかったようである。更に、最終的に700字程度の作文を書かなければならなかったため、興味からだけではなく、作文が書きやすいかということも考慮しなければならず、5つとは言っても質問を作成するのがむずかしかったようである。

最後に、二名の学生が知らない人に突然Eメールを送り、質問をすることに抵抗を感じたと回答していた。

表5. 「Eメールプロジェクトで一番難しかったことは何か」の回答項目別人数

回答項目	人数
Eメール・作文を書くこと	11
Eメールを読むこと	8
返信を待つこと	7
トピックと質問を考えること	5
知らない人にEメールを書き、質問をすること	2

注) 複数回答可

(7) Eメールプロジェクトで一番楽しかったことは何か

「Eメールプロジェクトで一番楽しかったことは何か」の結果を表5に示した。一番多かった回答は「日本人と交流すること」と「日本人学生からのEメールを読むこと」で、各13名いた。回答例としては以下のようなものがあった。

- Reading the emails I got back and corresponding with my mail partners was incredibly fun!
- Getting the emails back from my partners : I really enjoyed reading her comments.
- 日本人の学生と話すことがよかったです。

次に、6名の学生が「日本語・日本文化・日本社会について学ぶこと」、2名の学生が「Eメールを書くこと」が楽しかったと回答した。最後に、1名ではあるが、「日本語でレポートを書く力があると分かったこと」、「日本語のEメールを理解する力があると分かったこと」と回答しており、本プロジェクトの活動が、自己の学習の振り返り、成長を確認し、自信につながる機会になっていたことがわかった。

表6. 「Eメールプロジェクトで一番楽しかったことは何か」の回答項目別人数

回答項目	人数
日本人学生と交流すること	13
日本人学生からのEメールを読むこと	13
日本語・日本文化・日本社会について学ぶこと	6
Eメールを書くこと	2
日本語でレポートを書く力があると分かったこと	1
日本語のEメールを理解する力があると分かったこと	1
日本語について日本人学生からコメントをもらうこと	1

(8) Eメールプロジェクトをして何か思ったこと・気がついたことは何か

最後にEメールプロジェクトに参加した感想やコメントを聞いてみたところ、日本人学生と交流することができてよかった、日本語力向上につながったという感想が一番多かった。具体的には、以下の記述があった。

- I thought it was really nice to be able to communicate with a real Japanese college student rather than just

reading about them in the book. It was nice to get opinions and first-hand information.

- I think it is a very good project. I really valued the opportunity to communicate in this way with Japanese college students.
- My two partners varied considerably in style of syntax. One used very formal style of complex grammar and lots of kanji, the other wrote more open and friendly. It was interesting and enjoyable to be exposed to their two different styles.
- I think that it helped me improve on my writing skills.

また、「Eメールプロジェクトで一番楽しかったことは何か」の回答にもあったが、学習の成長を確認することができたという、次のような記述もあった。

- I noticed how far my ability to write in Japanese has come. About a year ago I was struggling to make sentences and now I can write papers over one page in length.

他には「Eメールプロジェクトで一番難しかったことは何か」の回答にも記述されていたが、日本人学生からの返信が期日通りに届かず大変だったという意見もあった。具体的には以下の記述があった。

- It was hard for me since it took a while for my Japanese partners to response back in time.
- パートナーの返事はちょっと遅かったから、時々しめきりの日に宿題をしなければならなかったです。でも色んな面白い事をならったから、このプロジェクトが好きでした。

今後の参考になる意見としては、以下の記述があった。

- I would have liked to have started the project even earlier to have a chance to get to know my partners better.
- My Japanese partner wrote very long and complicated sentences, and I misunderstood much of what he wrote. It might be good to advise Japanese partners to write simple Japanese.
- Brainstorming more topics would have been good.
- I think that the Japanese should be corrected before it is sent to the partners to make sure not to come off wrong or in a rude manner.

4. 教師側の感想と今後の課題

4.1 文教大学教員による感想と今後の課題

本プロジェクトを終え、たった数回のEメール交換ではあったが、学生達がアメリカの大学生と交流を持てたことがうれしかったと感じていることがわかり、英語でコミュニケーションをはかる楽しさを少しでも体験させられたのではないかと思う。プロジェクト進行中は、ミネソタ大学の学生が長い返信メールをくれるため読むのが大変な学生がいたり、逆に返信がなかなか来なかったり、こちらからのEメールが届いていなかったり、生身の人間同士の活動だからこそ起こる問題もあった。その一方で、学生が考えた質問以外にも、数回のEメールだけでたくさんの方が学べたように思う。例えば、アメリカにもアジア人の人がいること、日本で「おたく」といわれるゲーム好きのアメリカ人がいること、名前からは性別がわからないこと、男の人の名前だとわ

からなくて「彼氏いますか」と聞いて「はい彼氏がいます」と返信があったこと、モン族の人についてなど、学生にとって新しい発見と心に残るものがあったように思う。

今後の課題は、本プロジェクトをきっかけに学生達にいかに関係を続けさせるかである。一つのアイディアは、Cooperative Language Learning を参考に、文教大学の学生を3人から5人のグループにし、アメリカ人学生とEメール交換をさせ、グループ対抗で「私のアメリカ人の友達はこんなにすごい!」というテーマで発表させることを考えている。自分のグループのアメリカの大学生がどんなにすごいかをクラスに説得できたかで勝利を決定する。グループで活動することにより、一人で読むのが困難な返信メールもグループで助け合って読むことができ、一人では思い浮かばない質問もグループで考えたらユニークなものが出てくるのではないかと考える。また、Eメールの短所であるFace to Face コミュニケーションではない点を克服するために、写真を添付することを考えている。さらに、Eメールの最初の数回は、教師がトピックを出し、まずはお互いについて知るよう努める。例えば、自己紹介から始まり、大学紹介、クラブ活動紹介、アルバイト紹介など、日本からもアメリカからも自分達のことを紹介し相手を知り合う。お互いのことが分かった後であれば聞いてみたい質問も自然と出てきてEメール交換も活発に続けられるのではないかと考える。

4. 2 ミネソタ大学教員による感想と今後の課題

本プロジェクトを通して、教師以外の日本人と交流を持ち、日本社会や日本文化などについての知識を深め、通常の教科書を使って行う授業では得られない経験をすることができとても有意義であったと思う。本プロジェクト以前は日本人とEメール交換をしたことがなかった学習者、日本人の知り合いがいなかった学習者もあり、そういった学習者にとっては、本プロジェクトで日本人学生とコミュニケーションを図れたことは非常に嬉しかったようである。

今後の課題は、何が一番難しかったかという質問で、突然知らない日本人学生に質問のEメールを送信することが難しかったという意見があったように、質問をする前にメールパートナーとなる日本人学生について知る時間を与えるようにすることである。また、日本人学生の日本語に触れたことで日本語力向上につながったという意見があった反面、負担が大きすぎたと感じた学生もいたことが明らかとなった。本プロジェクトの目的は日本に住んでいる日本人学生の生の日本語に触れコミュニケーションを図ることであり、日本人学生に易しくわかりやすい日本語の使用をお願いすることは目的に反するが、より学習者がプロジェクトを楽しめるよう改善の必要性がある。更に、トピックと質問を考えることが難しかったという意見を受け止め改善するため、またトピックと質問がプロジェクトの成功の鍵を握っていることから、トピックを選ぶ際のブレインストーミングにより時間をかけ、よりよいトピック、質問を考えられるよう工夫が必要である。

5. まとめ

日米Eメールプロジェクトは、ミネソタ大学と文教大学の学生をペアにさせ、お互い興味のあることをEメールで質問し合い、返信メールをもとにエッセイを書いて発表するというものであった。

文教大学では、CALL102と104の授業で、自分たちと同年代のアメリカの大学生と興味があることについてEメール交換することを通し、英語でのコミュニケーションの楽しさを体験することを目的に本プロジェクトを行った。学生のアンケート結果から、学生はEメールを通してアメ

リカの大学生と交流を持てたと感じ、アメリカについても学んでくれたようである。さらに本プロジェクトが「英語を勉強する」のではなく「英語を使って新しいことを知りたい」と思うきっかけとなったように思われる。今後の課題として、文教大学の学生達が、日米Eメールプロジェクトをきっかけにアメリカの大学生とEメールを続け、英語を勉強するのではなく英語で楽しむことを続けられるように考えていきたい。

ミネソタ大学では、日本に住んでいる日本人とコミュニケーションを図り、自分のことを伝え、相手のことを知ることを目的とし、本プロジェクトを行った。

アンケート結果から、学習者は日本人学生と交流し、日本人学生・日本社会・日本文化などについて知識を深めることを楽しんでいたことが伺える。また、プロジェクト終了後もEメール交換を続けている学習者もあり、本プロジェクトが教室外での自律学習を促進するきっかけにもなったように思う。更に、本プロジェクトは、学習者が日本人の生の日本語の難しさを感じながらも、学習者の日本語が日本人とコミュニケーションを図ることができるレベルに達していることを認識するよい機会でもあった。本プロジェクトは、学習者に自己の学習を振り返らせ、成長を認識させる非常によい機会であり、更なる向上を目指すモチベーションになったのではないかと感じる。

6. 資料

資料1 日米Eメールプロジェクトアンケート

1	<p>How was the E-mail project ?</p> <p><input type="checkbox"/> Fun.</p> <p><input type="checkbox"/> OK.</p> <p><input type="checkbox"/> Not fun.</p> <p>Why is it ? ()</p>
2	<p>What was good for you about E-mail project ?</p> <p><input type="checkbox"/> Can practice reading and writing English</p> <p><input type="checkbox"/> Can learn American cultures</p> <p><input type="checkbox"/> Can make an American friend</p> <p><input type="checkbox"/> Other ()</p>
3	<p>How was the E-mail project in total ?</p> <p><input type="checkbox"/> Good.</p> <p><input type="checkbox"/> OK.</p> <p><input type="checkbox"/> Not good.</p> <p>Why is it ? ()</p>
4	<p>Do you want to participate in an E-mail project again ?</p> <p><input type="checkbox"/> Yes.</p> <p><input type="checkbox"/> I don't know.</p> <p><input type="checkbox"/> No.</p> <p>Why is it ? ()</p>

資料2 日米メールプロジェクトアンケート (questionnaire)

	NOT AT ALL			DEFINITELY	
1. Does this email project help you improve your reading and writing skills in Japanese ?	1	2	3	4	5
2. Does this email project help you understand Japanese culture/society ?	1	2	3	4	5
3. Do you think you learned many things which you didn't know before this email project ?	1	2	3	4	5
	BAD			GREAT	
4. What do you think about the topic you chose ? Write your topic: _____	1	2	3	4	5
5. What kind of topic will you choose if you participate in this project again ? _____					
6. What was the most difficult part of this email project ? _____					
7. What was the most enjoyable part of this email project? _____					
8. Please write down anything you noticed or thought about this email project. _____ _____ _____					